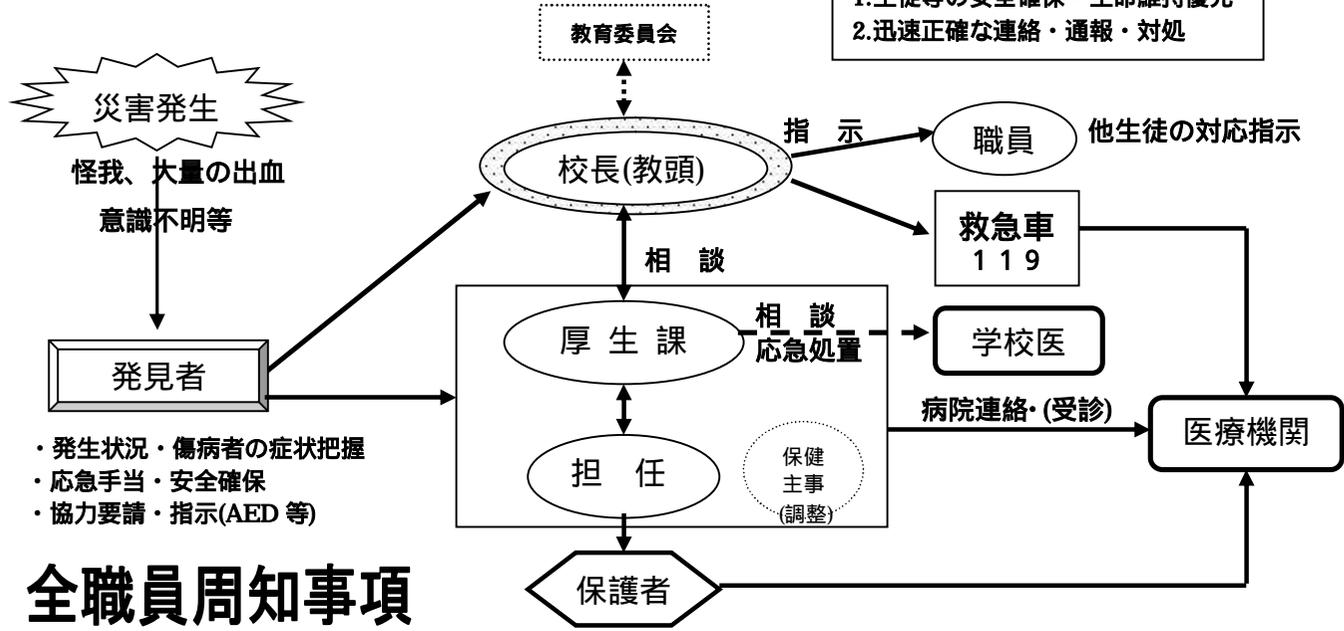


平成29年度 救急体制

<方針>
 1.生徒等の安全確保・生命維持優先
 2.迅速正確な連絡・通報・対処



- ・発生状況・傷病者の症状把握
- ・応急手当・安全確保
- ・協力要請・指示(AED等)

【重症度・緊急度の判断基準】
 (杉森守邦 緊急看護教諭学序説 参考)
 (重症度の判断基準)

要注意

- 1 呼吸困難
- 2 顔面蒼白・チアノーゼ
- 3 嘔吐の持続
- 4 めまい・あくびの持続
- 5 意識障害
- 6 悪寒
- 7 強度の発汗
- 8 苦悶・狂躁状態
- 9 尿・大便の失禁
- 10 急速な脱力状態

(緊急度の判断基準)

要請 救急車

- 1 意識なし、あえぎ呼吸
- 2 ショック状態の持続
- 3 けいれんの持続(5分以上)
- 4 激痛の持続
- 5 多量の出血
- 6 骨の変形のひどい時
- 7 開放創
- 8 広範囲のやけど

全職員周知事項

生徒の健康観察・早期対応

過呼吸を起こした場合は、人目が見えない静かな場所へ移動させ、ゆっくり落ち着いて呼吸するよう声をかける。(パ-パ-バッグは不要)

けいれん、手足の硬直がひどい場合は、医療機関へ。

熱中症のサインを見逃さない(頭痛・めまい・吐き気・手足のしびれ)、競技参加の中止

骨折や脱臼の疑いがある場合、その場または保健室で応急処置、医療機関へ連絡(厚生課)、保護者へ連絡(担任)を行い、搬送する。(副担任・職員)

骨の変形がひどい、アキレス腱断裂、5分以上続くけいれん、意識がない等の場合は、その場で救急車を要請(校長・教頭)。

意識がない(判断が難しい)場合には、AEDも準備し、心肺蘇生を行う。(職員)

安全・進行状況の確認

体調不良・ケガの把握、進行の調整・指導(全職員)

部活動事前指導

爪は短く切っておくこと(爪がはがれたり、怪我防止)

食事と睡眠はしっかりとること

飲み物(ペットボトル2本分準備)、凍らせたペットボトル等、タオル、着替えの準備

熱中症予防の指導

・飲水タイムを利用し、こまめに水分補給をする。(500mlのペットボトル2本分は、最低限準備しておくこと)

・熱中症のサインを見逃さず、体調が悪い時には無理をして、競技を続けない。近くの先生に必ず伝える。

近隣の医療機関の連絡先

	電話番号	電話で伝えること
救急車要請	119	救急であること 場所 患者の状況 通報者の氏名 電話番号 (0767-28-3145)
松沼学校医 9日(木) 午後より休診	0767-29-3188	患者氏名 患者の状況 (生年月日)
立浦学校歯科医	0767-28-5454	同上
宝達志水病院	0767-29-3121	同上
公立羽咋病院	0767-22-1220	同上

* 救急車要請の際

- ・到着までの所要時間を聞く
- ・校門へ出て救急車を誘導する
- ・一名同乗して連絡等にあたる

緊急時に使用する物

AED	職員玄関横	運動場へ
車椅子	保健室内	
担架	保健室内、1階女子トイレ横	運動場へ

* 製氷機は、調理準備室、保冷剤は保健室、事務室、職員室にあり

心肺蘇生法

